

# 第1章 ビジョンの概要

## 1 ビジョン策定の目的

「いしかわの水産業振興ビジョン」は、10年後における本県水産業のあるべき将来像であり、漁業者、水産業関係団体、市町、県などが目指すべき方向性、到達すべき目標の共有化を図るものです。

また、水産業関係者だけでなく、県民の皆さんに対し、食育や地産地消、水産業が持つ多面的な機能への理解などを通じて、本県水産業の発展に向けた身近な取り組みへの参加を呼びかけるメッセージでもあります。

本県では、平成19年11月に「石川県新水産振興ビジョン2007」を策定し、「水産資源の回復と維持」、「機能的な流通システムの確立」、「魅力ある漁業経営の確立」を3本の柱として、小型魚の保護などによる資源管理や種苗放流による資源造成の推進、首都圏などへの販路拡大やブランド化、「わかしお塾」による新規就業者の確保やスキルアップ対策など、基本方針である「漁業者が一丸となった魅力ある水産業の再生」の具現化に向けた取り組みを着実に進めてきました。

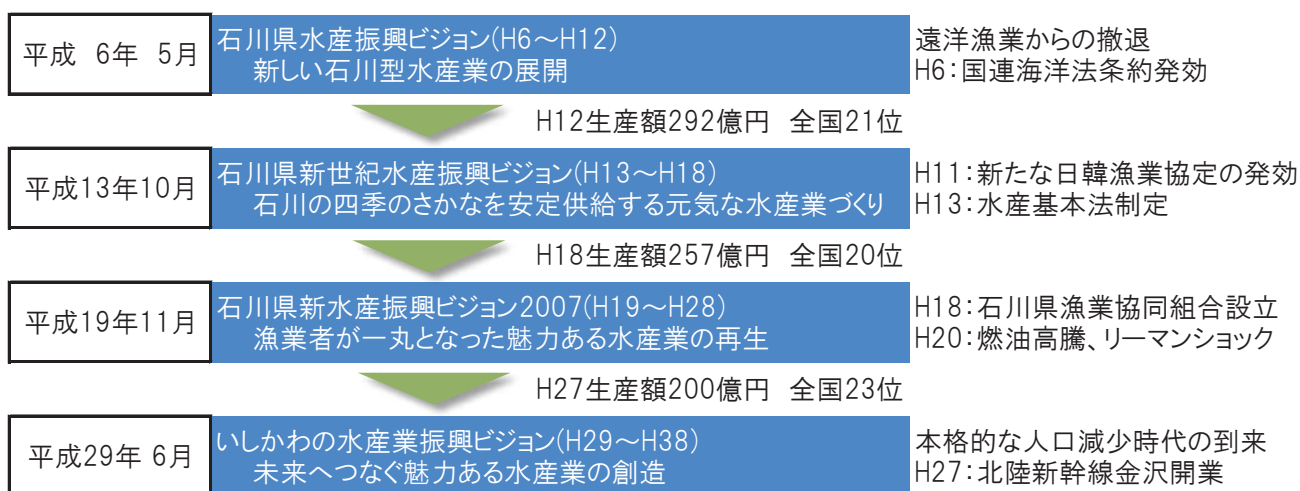
しかしながら、本格的な人口減少時代に突入する中で、今後、漁業就業者の確保は一層厳しくなると見込まれることから、担い手の確保育成が急務となっています。

また、魚価の長期的な低迷や漁船の老朽化などが進む中での収益性の高い漁業経営の実現や、国が打ち出している資源管理の方向性に合わせた資源の持続的な利用にも取り組み、水産業を魅力ある産業へと成長させていくことが求められています。

さらに、北陸新幹線金沢開業を契機として、鮮度の高い県産水産物への需要が増大しており、消費者ニーズの変化に対応した商品づくりなど、新たな対応も必要となってきています。

新たな「いしかわの水産業振興ビジョン」では、本県水産業を取り巻く様々な課題を踏まえ、今後10年間で重点的に推進すべき施策を明らかとするため、「意欲ある人材の確保・育成」、「水産業の収益性の向上」、「ニーズの変化に対応した商品づくりと販路の拡大」、「里海資源の持続的な利用促進」を4つの目標として整理し、これらの実現のための施策を一体的に展開することにより、「未来へつなぐ魅力ある水産業の創造」を目指します。

### ◆ビジョン策定の変遷



## 2 目標とする期間

このビジョンは平成38年度（10年後）を目標年度とします。ただし、水産業や社会経済の情勢変化などに的確に対応する必要がある場合は、概ね5年後にビジョンの見直しを行います。